

至聖所：黙 11:19-14:20

- イエス様の働き—調査審判（黙 14:6,7）
- ※1844 年以降、人々は真の安息日が土曜日であることを発見した。なぜなら、聖所が開けて契約の箱が見えたからである。（黙 11:19）

七つの封印：黙 6:1-16, 8:1

- パン=神の言葉（マタイ 4:4, ヨハネ 6:33）でありイエス様である（ヨハネ 1:1）
- パンのテーブル=神の御座（イザヤ 14:13,14）
- イエス様の働き—全ての時代の教会にパン（神の言葉）が欠かすことがないように働き続けられた。
- ※暗黒時代、パン（神の言葉／イエス様）は高額であったが手に入った（黙 6:6）

パンのテーブルはなぜ神の御座なのか？（1844 年以前）

鍵となる聖句・語句：

イザヤ 14:13,14

→北にある神の御座

エゼキエル 1 章

→車輪を持つ神の御座（移動することができる）

ヘブライ語で“パンのテーブル”

→“臨在”のパン

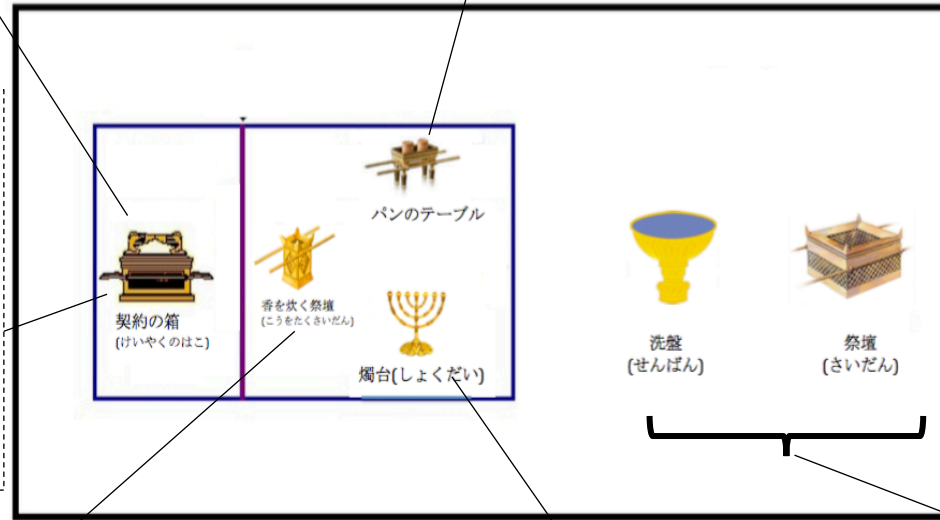
パンのテーブルの上には、それぞれ 6 個ずつ、二つのパンの山が置かれていた

→二つの御座

→神様とイエス様（黙 3:21）が座られている。（イエス様は復活されたのち、聖所の御座に座られた。）

七つの鉢(至聖所)：黙 15:5-8

- 七つの鉢=恩恵期間の終了
- イエス様の働き—恩恵期間の終了と共にイエス様の罪への仲介はなくなる。しかし、イエス様はわたしたちのことを守ってくださるであろう。（マタイ 28:20）



きた
にし ひがし
みなみ

七つのラッパ：黙 8:3-11:18

- イエス様の働き—聖徒の祈りはイエス様の功績（香）に加えられて捧げられた。（黙 8:3,4, 詩 141:2, ルカ 1:10）
- ※人間や偶像に罪を許すことはできない。ただイエス様だけが罪を許すことができる。

七つの教会：黙 1:10-3:22

- 七つの燭台=七つの教会（黙 1:20）
- イエス様の働き—全ての時代の教会が油（聖霊）を持ち続け、火が消えることがないように働き続けられた。
- ※光が消えたかのように思われた暗黒時代も、光が消えることがなかった。

黙 1:4-6; 1:17,18

黙示録のフォーカスは天の聖所におけるイエス様の働きであるが、それでも聖所の庭におけるイエス様の地上での働きを知ることができる。

その後聖なる者たちはイエス様と再会し天国へ、そして全ての罪はサタンの上に置かれ、彼は地上に縛られます（黙 20:1-6, レビ 16 章, 1 コリ 6:2,3）さらに 1000 年の後、わたしたちは「御自身が神の幕屋」であるイエス様と共にこの地上へ帰ってきます（黙 21:1-4）。

「これらの言葉は信ずべきであり、まことである。」 黙示録 21:5